

- システム企画

1. ゲーミフィケーション (Gamification)

ゲームのメカニズムを社会的に活用すること。コンピュータゲームで特徴的に培われてきたノウハウを現実の社会活動に応用することの総称。

2. ソフトウェアライフサイクル

ソフトウェア開発において、ソフトウェアの企画立ち上げから廃棄に至る一連の流れ。[企画]→[要件定義]→[開発]→[運用]→[保守]の5つのプロセスから構成される。

3. 企画プロセス

システム構築において、システム化しようとする対象業務の問題点を分析し、実現すべき課題や優先順位を定義するプロセス。システム構想の立案では、経営要求、課題の確認などが行われ、システム化計画の立案では、全体開発スケジュールの検討、導入の費用対効果の予測などが行われる。

4. 要件定義プロセス

システム構築において、システムに関係する利害関係者のニーズや要望、制約事項を定義するプロセス。システムに対する制約条件や業務要件について、関係者の合意を得る。

5. 業務要件 (Business Requirements)

要件定義プロセスの初期の段階において定義される内容であり、システム構築やソフトウェア開発において、システム化の対象となる業務の流れを整理したもの。

6. 開発プロセス

システム構築において、システムの応答時間や処理時間の評価基準を設定するプロセス。システム方式の設計と評価を行い、システム要件に照らして最適化されたソフトウェアの要件が決定される。

7. 調達(Procurement)  
システム構築に必要なものを必要に応じて取りそろえること。基本的な流れは、  
[情報提供依頼]→[提案依頼書の作成と配付]→[選定基準の作成]→[ベンダ  
企業からの提案書および見積書の入手]→[提案内容の比較評価]→[調達先の  
選定]→[契約締結]→[受入れ・検収]である。
8. RFI(Request For Information)  
情報提供依頼書。供給業者(ベンダ)に対して、情報収集のための情報提供依頼  
を行い、将来のシステム開発に向けて、技術動向調査書など、最適な先進技術に  
関する情報を入手するための文書。
9. RFP(Request For Proposal)  
提案依頼書。ベンダに提案書の提示を求め、発注先を適切に選定するための文  
書。発注先の候補となるベンダに具体的なシステム提案を行うよう要求することを  
目的として、依頼元の企業が作成する。
10. 提案書  
ベンダ企業が、RFP を基にシステム構成、開発手法などを検討して作成し、依頼  
元に対して提案する文書。
11. 見積書  
システムの開発、運用、保守などにかかる費用を示す文書。取引先の選定や発注  
内容の確認にとって重要である。
12. 検収(Acceptance Inspection)  
ベンダからの納品物が要求した仕様どおりであるかの確認を行うこと。
13. NDA(Non-Disclosure Agreement)  
秘密保持契約。
14. バリューチェーンマネジメント(Value Chain Management)  
製品やサービスの付加価値が、どの事業活動で生み出されているかを分析して、  
価値の連鎖を企業経営に取り入れようとする手法。

● ストラテジ系の計算問題

[例題 1]

次の条件で、製品 X を製造する。部品 Y、部品 Z の歩留りが表のとおりであるとき、製品 X を 300 個製造するために必要な部品 Y の原材料投入量〔 a 〕は何 kg か。ここで、製品 X の歩留りは 100% で、部品は全て新規に製造するものとする。

[製品 X の製造条件]

1. 1 個の組立て製品 X は、3 個の部品 Y 及び 1 個の部品 Z で構成されている。
2. 部品 Y 及び部品 Z は、それぞれの原材料から製造して用いる。
3. 部品 Y 及び部品 Z は、原材料 1kg から 1 個製造することができる。

| 部品種類 | 原材料投入量  | 歩留り | 部品の完成数 |
|------|---------|-----|--------|
| Y    | 〔 a 〕kg | 90% | ---    |
| Z    | 600kg   | 50% | 300 個  |

ア 225      イ 250      ウ 900      エ 1,000

[例題 1 の解き方]

- (1) 問題文の[製品 X の製造条件]から、製品 X には、部品 Y は 3 個、部品 Z は 1 個が必要であることが判る。
- (2) ここから、製品 X を 300 個製造するためには、部品 Y は(300 個×3 個=)900 個、部品 Z は(300 個×1 個=)300 個が必要であることが判る。
- (3) 問題文の[製品 X の製造条件]から、部品 Y は原材料 1kg から 1 個製造することができることが判る。
- (4) 問題文の表から、部品 Y の歩留り(不良品ではなく、正常に作れる割合)は 90% なので、原材料投入量〔 a 〕kg×0.9(歩留り 90%)=900 個であることが判る。
- (5)  $1,000 \times 0.9 = 900$  なので、空欄である原材料投入量〔 a 〕kg に当てはまるのは、選択肢エの 1,000 である。

答:エ

[例題 2]

ある企業の損益計算書が表(単位は百万円)のとおりであるとき、この会計期間の経常利益は何百万円か。

|            |        |
|------------|--------|
| 売上高        | 10,000 |
| 売上原価       | 5,000  |
| [利益 A]     | ---    |
| 販売費及び一般管理費 | 4,600  |
| [利益 B]     | ---    |
| 営業外収益      | 1,200  |
| 営業外費用      | 1,000  |
| [利益 C]     | ---    |
| 特別利益       | 30     |
| 特別損失       | 50     |
| [利益 D]     | ---    |
| 法人税等       | 230    |
| 当期純利益      | 350    |

ア 400      イ 580      ウ 600      エ 5,000

[例題 2 の解き方]

- (1) 経常利益を求める計算式:  $\text{経常利益} = \text{営業利益} + \text{営業外収益} - \text{営業外費用}$
  - (2) 利益 A は、売上高 10,000 - 売上原価 5,000 = 売上総利益 5,000 である。
  - (3) 利益 B は 売上総利益 5,000 - 販売費及び一般管理費 4,600 = 営業利益 400。
  - (4) 利益 C が経常利益である。 営業利益 400 + 営業外利益 1,200 - 営業外費用 1,000 = 600 で、選択肢ウが正解であることが判る。
- なお、利益 D は税引き前当期純利益で「 $\text{経常利益 } 600 + 30 - 50 = 580$ 」である。

答:ウ

下記の練習問題で理解を深めましょう!



- ✓ 翔泳社「情報処理教科書 i パスクイズ 222 IT パスポート試験攻略の書」
- ✓ IT パスポート試験合格講座 <http://rakupass.com/itpassport/>



Copyright © [RakuPass.Com](http://RakuPass.Com) - Kanya Ishikawa All Rights Reserved.